・もう時間が……

「……パーキングエリアとかってまだですか？」

高速道路で渋滞に巻き込まれている最中、唐突に静香がそう問いかけてきた。

「えっパーキング？　ちょっと前に過ぎたから次は……８ｋｍくらい先だな、時間はまだかかりそうだけど……」

ナビの表示をチラ見して答えると静香は少し焦ったような声で「そうですか」とだけ言い黙ってしまった。じわじわとしか進まない景色と沈黙に耐えれず話しかける。

「お腹でも空いたのか？　ハハ、そのパーキングエリアで休憩がてらうどんでも……」

と言いかけた所で言葉を遮られる。

「あの……そうじゃなくて、ッ……も、もう時間がないんですッ」

俺はようやく事態を把握した。

「お、お手洗いか？　もしかして……」

「言わないでください！　考えただけで……どうにかして……」

どうにかと言ってもこの渋滞ではどうにもならなかった。普段であれば5〜6分の距離だが、おそらく２０分以上かかるのは確実で、それより近くにあるインターへは

出口混雑の表示が掲示板に出ていた。
俺は前を向いたまま「耐えてくれ」としか言う事が出来なかった。
「つく……はぁ……プロデューサー……ぺ、ペットボトルって持ってますか？」
俯いたままだった静香が顔を上げこちらを見ずに尋ねてくる。何をしたいのかは聞かなかった。
「すまないペットボトルはない……水筒なら」
「す、水筒……」
苦虫を噛み潰したような顔をしているのが横目からでも分かる。
ドアポケットに入るコンパクトな水筒を片手で取り出して、少し残っていた中身を全部飲み干し何も言わずに手渡した。
「……ごめんなさい」
手渡されてフタを外しながら呟く謝罪の言葉に軽く手のひらを上下させて気にするなと伝えた。
座席を下げて、シートベルトを引っ張りだすと、スカートの中に手を入れ、腰を前

にせり出させる様な姿勢を取っていた。パーティションなどある訳も無く、センターコンソールで区切られただけの空間では目線を多少逸らした所で隣の人物が何をしているか丸分かりである。

「うっ……くくっ……」

微かな呻きと共にシュウウ……という音が容器のステンレスに反響して車内へと広がっていた。

俺はオーディオボタンに手を伸ばし、ラジオを点けるとボリュームを上げ、出来るだけ大きな声でトークをしている局に選局した。

『……なんてね！　ワハハハ！！』

そうした所で音は完全にかき消されず、小水が溜まっていく音はより大きくなっていく。

「はっ……ああ……もうぅ……っ！」

息苦しさを感じる程に時間の流れが遅い。

「止まって……止まってよ……零れちゃう……うぅ……」

ラジオはかなりの音量に設定しているにも関わらず静香の声ばかりが聞こえてくる。

逃げ出したい気分だった。
「……っ……ふっ……はぁ……はぁ……」
用が済み、吐く息も整わぬ内にキュルキュルとフタを回して閉める音がする。
「はぁ……はぁ……水筒は弁償します……あの……窓開けてください……全部」
「あ……あぁ、すぐ開けるよ！」
慌てて俺はパワーウインドウのボタンを全て押して窓を全開にした。充満した匂いが微風と共に入ってきた排ガス臭と入れ替わる。
「あと、ラジオの音……うるさいです」
「ご、ごめん……静香、水筒の事は良いから……」
「はい……すいませんプロデューサー……」
ラジオを消して大きくため息をついた後、前に見えた電光掲示板の渋滞情報の末尾には緑の三角マークが表示されていた。

・😈琴葉

「プロデューサー、本当に何でも良いんですね？」

「もちろん、琴葉の願いならなんで……も……？」

琴葉に渡した何でも言う事を聞く券の回答を聞こうとしていると意識が遠のいていった。

「……んっ♡んっ♡」

喘ぎ声が聞こえてくる

霞んだ視界が戻り意識がはっきりしてくるとサキュバスを模した卑猥なコスチュームに身を包んだ琴葉が仰向けの俺の上に跨っているのが分かった。

「な、何を……」

「あっ起きちゃった♡」

状況が飲み込めていない俺に構わず琴葉が続ける。

「私が本当にサキュバスだって言ったら驚きますか？　プロデューサーの精液ずっと欲しかったんです♡気持ちいいですか？」

挿入ったまま琴葉が腰をぐりぐりと動かす。

「うぅっ……そ、そんな……」
「こんな事してごめんなさい♡……でも安心してくださいね、死んじゃったりはしませんから」
そう言うとうつ伏せになり顔を近づけて耳元で囁く
「だからちょっと夢でも見てたと思ってプロデューサーも欲張りになっちゃえ♡」
次の瞬間首元を牙で噛まれて再び俺の意識は失われた。

「……丈夫ですかプロデューサー？」
目を覚ますと目の前には普段の琴葉がいた。
「えっ……あ、うん大丈夫」
「良かった、急に眠ったから心配になって……疲れていたんですか？」
「いや、そういう訳じゃ無いんだけど……ちょっと変な夢を見たみたいで」
先程の卑猥な姿が脳裏に浮かんだ。
「……変な夢だなんてひどい♡ちょっと甘噛みしたら倒れちゃったのはプロデューサーじゃないですか」

「ゆ、夢じゃなかった！」
「うーん、刺激が強すぎたのかな……今度は意識が保てるように努力しますね！」
「こ、琴葉別に努力しなくても……うわっ」
逃げる間もなく琴葉の背後から伸びてくる悪魔の尻尾に巻きつかれる。
「琴葉の願いなら何でも良いって言いましたよね？　ちょっと悪い事でも……私だって悪い事くらいしますよ？　身動き取れないプロデューサーを足腰立たなくなるまで搾り取ったり……ふふ♡一緒に気持ちよくなる事したいです♡」
続かせたい

・爆死したプロデューサーさ～ん！
「爆死したプロデューサーさ～ん！」
百合子の朗らかな声と共にドアが勢いよく開いた。
「な、なんだ……？　急に大きな声で」
「なんだ？　じゃありませんよ！　ね、杏奈ちゃん」
一緒にいた杏奈も頷く
「うん……プロデューサーさん、この間ガシャで天井した……でしょ？」
「この間どころか度々してるが……」
「諦めなければ絶対手に入りますからね！　でーも今回は回す時にいつもと違う事をしましたよね？」
「いつもと？」
「ASOBISTOREで……石買ってた」
「ああ、それは1ヶ月に1回買えるplatinumは無償石が１０％、それ以外でも５％のおまけとスタイルドロップも付くし浮いた石代で貯金もしたいからな[PR]」
「大事……です……そんな素晴らしい経済感覚を持ったプロデューサーさんには……

おまけしてあげる……ね♡」
「フフフ♡ちょっと恥ずかしいけど体を張って頑張りますね！」
「「天井まで一緒にイこ？」」
そう言うと二人は俺のスラックスのジッパーを下げ、下着から剛直した２５０連分の長さはゆうにあろうスタナビくんを取り出し……

・CM杏奈未来

「ぽちー……あれー？　ぽちー……んー？　プロデューサーさん！　ガシャのボタンが押せません！」

画面にはガシャ1回回すのにも足りない量のジュエル数が表示されていた。

「無くなっちゃった……ね、プロデューサーさん。杏奈……まだ回したい……未来のSSRにはみんなの衣装も付いてくる……から」

「私もまだボタン押し足りません！　どうするんですか？」

「ああ、諦めるもんか……」

当然俺も諦める事は出来なかった、ジュエル購入のボタンをぽちーしようとすると杏奈が止めに入る。

「待って！　ジュエルを買うなら……アソビストアでLOVEするのが……お得！」

「そうなの？　じゃあこのP……えーと……ぷるぁ？」

「未来も待って……プラチナよりも今はアニバーサリーエディションでLOVEすべき……最大で15%もお得！」

「英語も数学も出来るなんて杏奈すごい！」

「お得だな……未来は１５％お得ってどのくらいお得か分かるか？」
「いっぱいです！」
「正解！　二人とも偉いな……（ナデナデ）早速アソビストアでLOVEするよ」
かくして俺はLOVEした後、未来と杏奈に交互にガシャを回してもらい、スターナビゲーター君が伸び切った後に未来のSSRを手に入れ、全員分の衣装を貰う事も出来た。
「わーい♪新しい衣装だー！　黄色い色違いもかわいいです！　ありがとうございま～す！」
「杏奈も新しい衣装嬉しい……です……プロデューサーさん……大好き♡」
お得なアニバーサリーエディションは７／３１まで販売中
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・CM悪魔と天使１

――早とちりの悪魔、弊アカウントに上陸。７２，６５０石を消費

「紬？　召喚のコストがデカく無いか？　もう石無いよ……」

「ディアブルと呼びまっし」

「じゃあディアブルさん……環が来てないのに後９連って所で石が切れたんだけど」

「ならアソビストアでLOVEしまっし」

「なんか悪魔の力でどうにか出来ないんです？」

「堕落しきった思考ですね……対価はアソビストアでジュエルを買うより高くつきますがよろしいのでしょうか？」

「LOVEしてきます……えーと、このplatinumってのを買えば良いのか？」

「だらぶち！　貴方と言う人はこの劇場が７周年を迎えた事を忘れてしまったのですか？　anniversary editionを買いまっし！　通常より最大１５％もお得でオマケも付いてくるやいね」

「ありがとう……紬は悪魔なのに親切だな」

「ディアブルです。お礼はあんみつでいいやいね」

――くふふの天使　弊アカウントに上陸。２５０石を消費
「まさか２９２連で揃うなんて……」
「ねぇつむぎ、なんでおやぶん頭をかかえてるの？」
「運が良いのか悪いのか……人間という物は面白いですね大神さ……アンジュ」
足りない運はLOVEで解決、お得なアニバーサリーエディションは７／３１までまだまだ販売中
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・エアコン壊れてたらみらつばは控え室でも脱いでそう
「わっ、暑い」
「エアコンまだ効いてないのかなぁ、もー」
レッスン後に控え室へと入った未来と翼は部屋から外へ溢れる熱気に顔をしかめていた。中はちょっとしたサウナと思えるほどに暑かった
「暑いの我慢出来ないよー、ねぇ未来上脱いで良いかなー？」
「うん、プロデューサーさんもいないし……いいと思う！私も脱いじゃおーっと」
「二人とも下着とスカートなんて何してるの！？ここ更衣室じゃないのよ！？」
少し遅れて入ってきた静香が声を張り上げた
「あープロデューサーさんよりうるさい人に見つかっちゃった♡」
「誰がうるさい人よ翼！プロデューサーだって見たら怒るわよ！全く未来もだらしないったら！」
「静香ちゃん怒ったら余計暑いよーエアコンで涼しくなるまでだから……静香ちゃんも脱いで良いから、ねっ？」
「二人だけ脱いでずるいと思って言ってるんじゃないの！」

「いいじゃん静香も脱げば？」
「うぅ……確かに暑いけど……」
「静香ちゃん、運動に熱中したら大変だよ？」
「……熱中症の事言ってるの未来？」
「それそれ」
「もう脳みそ溶けてるわね……」
「ひどーい」
「じゃあじゃあ私とじゃんけんしよ？私が勝ったら静香が脱ぐ、どう？」
「なんで勝負みたいになってるのよ……だいたい翼とじゃんけんしたら負けるに決まってるでしょ！？」
「ちぇーバレた」
「……もういいわよ、カッカしてたら限界になってきた私も脱ぐ」
「わーい静香ちゃんもおそろーい」
「あっ……ちょっと涼しいかも」
その時ドアが開いた

「おーいみんな控え室のエアコンが故障……えっ！？間違っ……」
「やーん、プロデューサーさんのえっち♡」
「あっプロデューサーさーん、間違ってないですよー上着ますね」
「な……あ……こ、この変態プロデューサー！！」

……

「……デリカシーが無いんですよ！」
「ごめんて……だいたいなんで脱いでたんだすぐ連絡してくれれば……」
「あはは、静香、ブラのままプロデューサーさんに怒ってておもしろーやっぱり静香の方がうるさかったね」
「ねー」

・CM悪魔と天使２

「天使アンジュ様……もう石がございません。友と聞くディアブル様もお呼びしたいのですが、普通に石を買うと高くて……何か良い方法はございませんか？」

「くふふ……人間さん、ASOBISTOREでLOVEするのです。７／３１までなら知恵の実ストアなどで買うより最大１５％お得に石を授ける事が出来ますよ」

「本当ですか！？早速準備してまいります！」

「ハァハァ……やっといらっしゃった！」

「空に煌めく星（スタナビくん）の一つが伸び切ってしまいましたね……まぁ仕方の無い事です」

「待たせましたねアンジュ、所でこの者は……？」

「我々を人間界へと呼び出す手助けをしてくれた人間さんですよ」

「そうですか、では何か褒美を与えましょう」

「ディアブル、既に願いは聞いております、さぁ私の足をどうぞ……」

「うぅ……アンジュ様のおみ足……」

「……アンジュ？人間界でこの者に頼るのはいささか危険な気がします」

天使の足は出されても予算の足は出したくない、そんなあなたに一つでも多くのLOVEを……最大１５％お得なミリオンジュエルアニバーサリーエディションは７／３１まで販売中。
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・レア情報

「プロデューサーさんって何日ヌいて無いんですか？」

俺は脱力した。俺自身のレア情報なんて何かあったっけと頭のメモリーを掘り起こそうとしている所だったからだ。

「どこがレア情報なんだ……大体そんなの聞いても教えないぞ」

「えーっ、なんで教えてくれないんですか？最近忙しそうだし、溜まってるならエッチしたいんじゃないかなーって思ったのに」

「そんな事気にしなくていいよ……」

「プロデューサーさん冷た～い～、もー私で童貞卒業したくせに」

初めてだったのは翼だって……という言葉は飲み込んだ。

「ほらもういいだろう？宿題の続きを……」

「集中出来ませんよ～宿題は他の誰かに教えてもらえますけどエッチの勉強はプロデューサーさんとじゃなきゃヤダ～」

「……ねぇダメぇ？」

甘ったるい声と媚びた言葉が下腹部に刺激を与え怒張は隠しがたいものとなってい

た。

「……焚きつけたのは翼だからな」

「は〜い、ちょっとの休憩ですから大丈夫♡」

広げたテキストの片付けもそこそこに翼の手を握り外へと出ていく、摂氏４０度近い温度も気にならないくらいの密着具合で俺と翼は休憩場所を探し始めた……

・CM魔法は待っている！
「私には時間が無いんです！今すぐLOVEしてくださいプロデューサー！」
「え、なんでサンの格好してるんだ？それにLOVEって……大丈夫なのか？条例とかに引っかかったりしない？」
「はぁ！？何言ってるんですか通報しますよ！？LOVEなんて言ったらうどんかお得に購入できるアソビストアのミリオンジュエルの事しかありません！」
「それに並ぶんだうどん」
「当然です！準備は良いですか？」
「ああ、早速このプラチナを……」
「恥を知りなさい！！まだ７周年記念のセットが残ってるじゃないですか！もう私がいないと全然ダメですね……」
「す、すまない……」
「良いですか？無償ジュエルが最大１５％増量のアニバーサリーエディションは７／３１の２３時５９分まで！魔法は待っています！」
「それ言いたいだけじゃないか……」

魔法にかかったようなお得さ、アニバーサリーエディションは今日いっぱいまで購入可能

ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・CMまかべー
みなさん、こんばんは。
真壁瑞希です。
皆さんはジュエルが足りなくなった事はありますか？
私はあります。
どうしても欲しいあんな衣装やこんな衣装の為……きらきら。
祝いたいあの人の為に……ぱちぱち。
そして、負けられないイベントの為……めらめら。
そんな時にみなさんはどこでジュエルを買いますか？……アプリのストア、ふむふむ……
悪くはありませんがもっとお値打ちに買える場所があります。一体どこか……
じゃん。
そうアソビストアです。なんといつでもアプリのストアに比べて５％お得に買えておまけも付きます。
さらに、な、なんと毎月１回は１０％お得なプラチナも……ちゃりーん(お金の音です)

お得すぎるぞ……アソビストア。善は急げと言います……ばいなう。
もっともっとらぶしたい。ジュエル買うならアソビストア、だぞ。［PR］

・ソク……
「……お腹空きました」
ぐーという言い訳しようの無い虫の一声を俺に聞かせた後に静香はちょっと恥ずかしそうに言った。
「確かにお腹空いたなー、うどん？」
「はい！」
外での撮影が伸びて車での移動中、ふと時間を見ると２０時を過ぎていた。幸いロードサイド店の多い場所を走っていたので、見知ったうどんチェーン店へと入った。
「それホントに辛いですよ」
「知ってるよ、好きなんだ」
「へぇ……意外です」
「そうかな？　っていうか静香もこれ食べるんだ」
注文したのはおろしうどんに刻んだ醤油漬けの青唐辛子を乗せたシンプルな構成のうどん。赤くはないので見た目からはそう見えないが唐辛子は一口かじるととんでもなく辛い。だがそのあとに啜るおろしうどんの旨さと言ったら……ともかく夏になる

とよく食する一品なのだ。
「一回食べてすっごく辛かったのを覚えているので……まあクセになるのは分かります。通なんですね、少し見直しました」
「ありがとう？」
俺はたまに静香が分からなくなる。

口の中が辛味が覆われている、薄まる度に少しずつ唐辛子をかじり、辛さが途切れないように努めていた。汗がうっすらと額に浮かぶ中、冷えたおろしとうどんを口に運ぶ手は止めなかった。
「美味しそうに食べますね、辛いの得意なんですか？」
「ん……いや、そんなにだけどこれは別というか……珍しいな静香が自分のうどんに集中してないのって」
「プロデューサーがあんまりにも美味しそうに食べるから自分の食べ方が間違ってたのかな……って」
「辛いのは辛いから静香の感覚は合ってるよ、俺は薬味を多めに入れてるけど、天か

す入れたり、お揚げの甘みで緩和させたりする人もいるって」
「うぅ気になる……食べたいけど今日はもう食べちゃったし、もし辛くて食べられなかったら……」
「別の日に行くか？　確かこの店劇場の近くにもあったし……」
「ホントですか？　じゃあ明日は！」
「明日！？　いやまあ毎日でもうどん食べたいって言ってるもんな……」
「そうです、麺は急げとも言いますからね」
「言わないよ……よいしょっと」
「どこ行くんですか？」
「ふふ……この器に残った粒に少しつゆを注いで飲むんだよ辛味が乗ってすごくうまいんだ……」
「もう！　明日まで食べられないのわかってるのにプロデューサーのいじわる！」

・CMゴールデンピーチ
「うぅ……ジュエルがない」
「何うなってるのお兄ちゃん」
「ゴールデン桃子が来たんだよ、ノーマル桃子！」
「桃子に変なあだ名付けないでお兄ちゃん」
「ぐうぅ……とりあえずジュエルを買おう……」
「待ってどこで買うの？」
「アプリのストアだよ」
「お兄ちゃん……はぁ、忘れちゃったの？LOVEするならアソビストアでしょ！いつでも５％お得でひと月に１回買えるプラチナは１０％もお得なんだから！」
「そういえばそうだったな！流石だなプラチナ桃子は」
「ノーマル桃子じゃなかったの？まぁわかったならいいけど……頑張ってねお兄ちゃん」
宝石の様に輝くアイドルちゃん達の為にいっぱいのLOVEを
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・うどんコラボ
「ハァハァ……あ！みらいっち助けて～！」
「真美だ～どうしたの？」
「静香お姉ちゃんがヤバいんだよ～」
「え、静香ちゃんがなんなの！？」
「ナンじゃなくてうどんだよ～！あのね今度真美たちがうどん屋さんとコラボするっしょ？」
「あぁ静香ちゃんが去年やってたお店の！」
「そうなんだけどさ～それを知った静香お姉ちゃん大ハリキリで『亜美、真美！うどんの歴史をおさらいするわ！』って全十回の大バリウムな授業を始めちゃってさ！第三回が終わって亜美はもうへろへろで真美は命トリガラ休憩に出たんだよ～みらいっち～静香お姉ちゃんってどうしたら止まるの？」
「うわ～……」
「鶏ガラって出汁取ってどうするんだ……後バリウムじゃ無くてボリュームだな、全部聞いた後にレントゲン撮ったら胃にうどんが写りそうだが……」

「兄ちゃん！聞いてたなら何とかしてよ～うどんの事になると静香お姉ちゃん、律っちゃんよりもヤバいよ！このままじゃ真美たちの脳のお味噌が煮込みうどんに変わっちゃうよー！」
「そう言ってもなぁ……」
「今うどんの話してました？」
「ぎくっ！？」
「あ、静香ちゃん」
「真美、休憩時間もうどんの自習だなんて素晴らしいと思うわ」
「い、いやぁ～そ、そーゆーつもりじゃ……」
「すいません、せっかくのうどん談義中に……ちょっとうどんの勉強があるので失礼します」
「し、静香お姉ちゃ～ん、続きは明日じゃダメぇ？」
「翼のモノマネしてもダメよ、明日からはうどんのレッスン実践編、コラボまで約二ヶ月、私たちには時間が無いんだから」
「うあうあ～味噌煮込みうどん美味しい！じゃダメなの～……」

「連れて行かれちゃった……」
「うどんとなると気合いがすごいな……」
「……ちゅる、わお～♪……」
「あ、杏奈、何歌ってるの？新曲？」
「ううん、あのね……カレーうどん屋さんとコラボするから……って静香が教えてくれたCMの曲……ちゃんと歌えるように今度練習しよう……って、結構クセになる曲で楽しい……ちゅるちゅる、うまうま♪……」
「へ～CMソングを歌うんだ！いいな～」
「？……まだわからない……よ……けど準備は大事……って静香が言ってたから……」
「そうなんだ……プロデューサーさんも知らないんですか？」
「グッズはともかく曲までは……うどんの仕事に関わるプロデュースは静香の方が向いてると未来は思うか？」
「じ、自分を見失わないでくださいプロデューサーさん！」

・サキュちゃ

夜中にガサゴソという物音で目が覚めた。まさか泥棒？恐る恐る見に行くと冷蔵庫を漁っている悪魔のような姿の未来が……未来？

「なんだ夢か」

「うわぁ！も～びっくりした！プロデューサーさん起きてたんですか？」

声で驚いたのか手に持っていた物を落としかけていた。

「寝てるよ、やたらリアルな夢だけどね」

夢じゃなかったら未来が悪魔の衣装を着て夜中に俺の家の冷蔵庫を漁ってるなんて意味不明な状況に説明が付かない。

「夢？多分違いますよ？」

「そう？まあ良いよ、未来は何しに来たんだ？」

「プロデューサーさんの……れ、冷蔵庫に入った牛乳と生クリームたっぷりシュークリームをもらいに……後、それと……」

「そういや冷蔵庫にシュークリーム入れてたなぁ起きたら食べよう……」

「今食べないんですか？半分ならあげますよ？」

「いや一応俺のなんだけど……まあ今食べても意味無いから……後は未来の好きにしていいよ」
「好きにって何でもいいんですか？」
「ああ」
そう答えたと同時にこちらに飛びかかり押し倒された。
「もう牛乳や生クリームじゃ我慢出来なかったんですよ♡プロデューサーさんのホンモノせーえき頂いちゃいますね！でへへ♡」
舌でねっとりと顔を舐められてようやく気づいたあれこれ夢じゃな
続きがあるという事にしたい

・CM狙った獲物は
「――狙いはコイツか、で？　報酬は」
「十分な額を用意したケースの中を確認してくれ……おい、あのチビは何をしている」
「んー……ダメかも……」
ケースの中を探るアンナが呟く
「なんだとこのチビ！」
「こらアンナ！　勝手に覗くな！　仕事の邪魔だって言ってるだろ！」
「ナオさん、ごめんなさい……でもこれ……普通のジュエルだから……」
「何……？　本当だ……アンタ、ジュエルはどこで手に入れた？」
「アプリのストアで買ったものだが……」
ナオは依頼人の言葉を聞き頭を抱えた。
「なんてこった……アンナ説明してやってくれ」
「んと……ジュエルは普通に買うより……アソビストアでLOVEした方がすごくお得……」
「具体的に言ってくれ！」
「ストアだと毎月1回買えるplatinumが１０％お得でドロップのおまけ付き……それ

以外もいつでも５％お得……！」
「くっ……そうだったのか、俺とした事が」
「まあこのジュエルも使えない事はない……依頼は受けるよ」
「ああ頼む」

「お、おいケースのジュエルが無くなっちまったぞ」
「えへへ……次は出ると思う…よ？　ね、ナオさん」
「こういうのは出る時はすぐ出るんだよアンナに任せとけばいい……依頼人のアンタは早くLOVEしてこい」
「百発百中って言ったじゃないか！」
「ガシャを分かってないな……当たるまで撃ったら当たるんだよ……」
「くそっ、ふざけやがって……LOVEしてくる！」
……狙った獲物と好機を逃さないそんなあなたにLOVEを
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・CMあんゆりアクスタ

「WOOOOOOOOOOO！」（なんかイエティみたいな叫び）

「百合子さん、落ち着いて……」

「落ち着いていられないよ杏奈ちゃん！！　アソビストアアンバサダー衣装のグッズが出るんだよ！？」

「うん……杏奈と百合子さんがLOVEのポーズを取ってるアクスタ……嬉しい……」

「それだけじゃないよ！　二人のデカアクスタもあるって！！　なんと高さは３４４ｍ！」

「そんなに……流石に大きすぎると思う……」

「３４４ｍだった……細かい事は置いといてこれならもっともっとLOVEしたいプロデューサーさんも満足！！」

「あ、ジュエルが３％お得なクーポンも付けなきゃ……」

「杏奈ちゃん、３％ってどのくらいお得なんだろう……？」

「１０，０００円で８，８７５個のジュエルだから……んと……そこそこ……お得！」

「そこそこお得！　と言うことは実質無料！」

「無料な訳無いだろ……二人とも何言ってるんだ……」
「あっプロデューサーさん！」
「でもグッズ買ってLOVEも割引ならお得だな……」
「じゃあ、プロデューサーさん……購入ください！」
「購入するよ！」
「「やったー！！」」
あんゆりLOVE、ジュエルまでお得なアクスタは１１／１０まで
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・CMかみさま1

「どうかお目当てのSSRが出ますように……」

「でへへ～叶うかもしれませんよ？」

「お、おい未来適当言うなって！」

神社で一人願掛けをしていた所へ現れたのは狐のような耳が付いた少女と龍の角が付いた少女の二人。直感的に神様だと思ったのは纏うオーラと不思議な装束からだろう。

「か、神様……いらっしゃったんだ……」

「いまーす♪それでその箱って何が入ってるんですか？」

「これですか？スーパーで買ったただのお菓子でこれとは別にお供えは……」

「昴！お菓子だって！」

「ま、マジかよ！久々じゃん！大体お酒かお揚げだもんなー、ありがたいけどたまには別な物も欲しいって思ってたんだよ」

「普通に食べるんですね……俺のだけどどうぞ」

「わーい、いただきまーす！あ、ついでにお願い聞きますね、えーっと……えすえす

あーる？へ～なんか英語～」
「うまいなーこれ！でもさ未来、これオレ達じゃ何とも出来なくないか？確率の神様に知り合いとかいないぜ？」
「えっ、そうなの！？どーしよもう食べちゃった！ご、ごめんなさーい！」
「お供え物なんで気にしないでください」
「ごめんな、あんま力になれなくて、このガシャ？とかいうのする時はまた来てくれよなオレと未来で応援するからさ」
「ありがとうございます」
神様の応援、こんな心強い言葉もなかなかない。ならば俺のやる事は一つLOVEを尽くして天命を待つ事のみ。
ミリオンジュエルGold新登場
ジュエル買うならASOBI STORE【PR】

・りおちゃん誕生日

「かんぱーい！」

グラス同士がカチンと何度目かの音を立てる。

「乾杯！　……一杯ごとに乾杯するのか？」

「プロデューサーくんのくれたジョッキだから何回も乾杯したくなるの！　このビールもいつもより美味しい気がするわ～」

「そりゃ良かった、あ、でも飲み過ぎてこの間みたいに『私を嫌いにならないで～』って道の真ん中でこっちに絡む酔い方は勘弁ね……」

「ヤダ、私そんな事言ってたの！？」

「通りがかりの人からすごい目で見られたよ」

「もー最悪ね私……プロデューサーくん、お願～い、嫌いにならないで♡」

「はいはい、だいぶ回ってるな」

「ウフフ……宅飲みだから大丈夫♡ところで今日はどうするの？」

「そろそろ終電だし、寝かしつけて帰った方がいい？」

「も～酔うとそうやってイジワルになるんだから！　今日は一緒にいて欲しいの……

キミのグラスが空いたら……ね？」
　続いて唇同士が触れ合う音。

・CMかみさま2

「お主、俯いて何をしておるのじゃ？」

「おぉ昴晴さま、これはゲーム……ええと遊戯です」

「ほー、最近はそんなちっこい板でも出来るんじゃなー！どんな事をするんじゃ？」

「音楽に合わせて板を叩いたりしますね」

「鼓みたいじゃの」

「まあ大体合ってます、他にはですね……」

「あー！お主来とったのか！のうのう、それげえむじゃろ？わしにやらせてみい」

「なんじゃ実来、お主やり方も知っとるのか？」

「でへへ～この前教えてもらったんじゃ！がしゃと言うのが楽しくてのう……」

「がしゃ？なんか物が壊れたような響きじゃな」

「ええと、なんて言えばいいか……げえむで使える物が当たる福引きとか富くじみたいなものです」

「博打まで出来るのか！？すっげーおそろしいのう……実来、それ危ないんじゃ無いか？」

「人の子がええと言うとるからええんじゃ！のうお主♡早く板をぽちっとさせて欲しいのじゃ」
「まぁここで引いたらご利益あるかなって思って来たので大丈夫ですよ」
「ふうん……うち金運や勝負事のご利益ってあったかのう……？」

……

「ほへえ……」
「実来の顔が溶けとる」
「ふぇすってこんなに出ないんじゃな……」
「出ない時はそんなものですよ、実来さま」
「お主は冷静じゃのー、わらわなら取り乱すやもしれん」
「昴晴さま、祠壊さないでくださいね、出なかったら出るまで引き切るだけです」
「お主……もうじゅえるがのうなった……わしは……諦めとうない、どうすればええ？」
「ASOBISTOREでLOVEします」

「また新しい言葉が出て来た……わらわにも分かるよう説明頼む」
「ASOBISTOREという商いをしている店で銭をがしゃで使う為のじゅえるに交換(LOVE)します。アップル屋やグーグル屋で普通に交換するより1割お得な白金！7分5厘お得な金！これを交換してもいつでも5分お得！しかもおまけまで付いてくるんです」
「おまけまで付いてくるとはお得じゃのう」
「でしょう？ちなみに実来さまはどれくらいお得か分かりますか？」
「いっぱいなのじゃ！」
「お見事です」
「ええんか、お主らそれで……」
五穀豊穣、雨乞祈願、千客万来、ガシャ必勝……？
かみさまだってLOVEしたい
ジュエル買うならASOBISTORE［PR］

・言いたい琴葉言え貴音
「それでは続いてのお便りです、神奈川県のはれはれクラリネットさんから」
『琴葉さん、貴音さんこんばんは』
「こんばんは～」
『私は夜中まで起きている時についつい甘い物を食べてしまい、今日はこれだけ！と決めていても気がついたらお菓子のひと袋、ひと箱が空になってしまいがちです。そうなった時にはさすがに罪悪感を感じてしまうのですが、お二人は夜中に食べるおやつで罪悪感を感じる事はありますか？』
「とのこと、琴葉はどうでしょうか？」
「うーん……私アイスが好きで、SNSでも調べて気になったアイスは色々と買い込んでるんですよね」
「好物のりさーち……真、重要ですね」
「はい、ただ夜に小腹が空いちゃうと冷凍庫にたくさんあるアイスの中からつい２個、３個と食べちゃって……そういう時はあぁ～ちょっと食べすぎちゃったーって罪悪感が湧いてきちゃいますね、貴音さんはそういった事ってあるんですか？」

「罪悪感ですか……腹八分目を心掛けている事もあるかもしれませんが、食と言うのは命を形作るもの……その行為に罪の意識を感じた事はありませんね」
「食は命……な、なんだかすごい……」
「ふふ……琴葉もあいすに罪悪感を覚えるならば代わりにらーめんは如何でしょう？」
「ら、ラーメンを！？」
「食欲を唆る香り、疲れた喉を癒す油分、身体を温めるすーぷ、滋養豊富な具材、小腹を満たす麺……おやつとしてもぱーふぇくとかと」
「ラーメンが美味しいのはわかるんですけどそれはもっと罪悪感が……」
「一食で腹七分、残りの一分を満たすおやつとしては適していると思ったのですが……はて？」
「あはは……なんだかすいません」
「気にする事はありません……ただ琴葉が罪悪感を感じるという程に美味なあいすも気になる所……今宵のおやつは琴葉におすすめを聞き、そのあいすと致しましょう。真、楽しみです」
「えーではふつおたのコーナーはここまで、お便りが読まれた防御率７．６５さんと

はれはれクラリネットさんにはサイン入り番組オリジナルステッカーをプレゼントします。それでは続いてのコーナーの前に」

「一旦ぶれいくです♡」

『田中琴葉と』『四条貴音の』『とーく！言いたいことは言えたかね～？』

・CM補給物資

「司令官、先行している偵察隊からの暗号通信です！『われ期限付きLOVEを発見せり』」

「なにその暗号……カオリとりあえず復号してくれ！」

「はい！　……どうやら補給物資に関する情報のようです。１５％増量されたミリオンジュエルが前線近くのASOBISTOREという倉庫にある模様、ただし来年１月１８日を超えると使い物にならなくなるとの事、如何されますか？」

「ひと月に1回買えるプラチナ（１０％）とゴールド（７．５％）を越える上乗せ分におまけまで付いたハーフアニバと来たか……反乱軍に先を越されたくない、確保だ！」

「了解！　物資の確保に向かいます！　あ、司令官言い忘れてましたが、この作戦変更で別途費用が発生しますのでよろしくお願いしますね♡」

「えっ俺が払うの？」

「全部隊出撃！　私に続いてください！」

「待って？　ポケットマネーなの！？」

ガシャ1回分のジュエルで天国と地獄を見る戦場【フェス】に強力な補給物資をいつもより更にお得なミリオンジュエルハーフアニバーサリーエディションはⅠ（９，５０６個）、Ⅱ（１９，４３５個）とも2回購入可能

ジュエル買うならASOBISTORE［PR］